

平成29年度 第2回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：平成29年7月28日（金）14時00分～15時30分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 堂本委員長、豊田委員、瀬戸委員、
萩原委員、高垣委員

事務局 中津総務課長 岡総務課長補佐、小田原主任、
石井主事

公立大学法人尾道市立大学 中谷理事長、菅理事、寺山理事、
吉原芸術文化学部長、有吉教授、
石井総務課長、土岸総務課長補佐、
崎丸学務課長、斉藤企画広報室長、堀江係長、
森下主任、三上主事

報告事項：1 平成29年度第1回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について

議 題：1 平成28年度業務実績評価について

2 意見書について

ア 財務諸表の承認について

イ 剰余金のうち中期計画に定める使途に充てられる額について

3 公立大学法人尾道市立大学中期目標（第2期）について

【報告事項】

1 平成29年度第1回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について

平成29年度第1回評価委員会議事要旨について、審議の結果、全会一致で承認することとし、速やかに公開することとした。

【議 題】

1 平成28年度実績評価について、事務局から説明を行った後に、次の意見が出され、全会一致で承認された。

第4 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(委員) 全体的に年度計画に対してどのように行ったという自己評価が記載されておらず、評価が難しい。

外国人留学生全体のための日本語学習教材の充実については、「教材を充実させる」という計画通りに実行したと思うが、特に優れたことでは

ないと考え、評点を4から3へ下げている。

(委員長) 教材を揃えただけでは、評点は4ではなく3になる。教材を利用した結果、学生にとってどのような利益があったか等のデータが示されれば、評価は上がると思う。

(7) 大学院教育

(委員) 報奨制度について、どの程度検討したのか、また検討した結果どのような問題点があったのかを記載していないので、評価しにくい。

(大学) 美術学科が推薦する学生の展覧会を東京で開催するという報奨制度を数年前から検討していたが、実現できなかったことから、別の形として学長賞で表彰を行った。

(委員) 実際に検討し解決の方向へ向かっているのであれば、評価をしてもよいと思う。

(委員長) 異なる中期計画に対して同じ年度計画を設定し、同じ自己評価を行っているものがあるため、正しく評価ができない。さらにきめ細やかな自己評価をする必要がある。教育の質の向上は、常に念頭に置かなければならない課題だと思う。

第4 研究等の質の向上

2 研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(委員長) 科研費申請について、尾道市立大学は科研費に当てはまらない分野があるので科研費にこだわる必要はなく、科研費以外にも外部資金を獲得する手段はあると思う。美術学科で公益財団法人へ助成申請を行って助成金を得ている点について、一つでも成果があれば今後につながる道筋になると考え、評点を4にしている。

また、(3) 研究成果の評価について、外部が研究の成果を把握できる情報発信の取組みは、行っているか。

(大学) 教員の教育研究実績について、実行した点や改善した点の報告を毎年度末にもらい、それを集約したものをホームページで公表している。

(委員長) 検討するという表記にとどまらず、実際に行っている取組みを積極的に自己評価に記載すべき。具体的に行っていることを示すと、評価しやすいと思う。

3 学生への支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 学習の支援について

(委員長) 就職実践講座の参加者数が減少しているが、就職率は90%と高く、講座を受けたことにより、一定の効果をあげていると考え、評点を2から3へ上げている。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

1 地域貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

(委員) 具体的に記載してあるので、分かりやすい。日々学生と交流がある中で、実際の活動内容を把握しているが、大学の自己評価については、もっと高くしても良い。経済情報学科の学生があまり活動していない印象を受けるが、語学留学の参加などは経済情報学科の学生が多いので、その部分を記載するべきだと考える。

(委員長) 地域貢献は、力を入れていると感じる。公開講座の受講者の満足度が高いとあるので、市民の意見が示しやすいアンケート結果は、積極的にPRをするべきだと思う。

第7 財務内容の改善に関する目標

(1) 外部資金等の獲得

(委員) 翠明館の寄贈を受け、同窓会から助成金等を受けることにより学生を支援したことは、中期計画から見れば計画以上のことを行っていると考え、評点を3から4へ上げている。

2 平成28年度財務諸表及び剰余金のうち中期計画に定める使途に充てられる額の承認申請に対する意見書について

第1回評価委員会で審議し、承認された内容に基づきとりまとめた意見書について、事務局から説明を行い、全会一致で承認された。

3 公立大学法人尾道市立大学中期目標（第2期）について

中期目標について、事務局から説明を行い、次のような意見が出された。

(委員長) 法人でもよく検討した上で市と協議をして欲しい。尾道市立大学のアピール力が沢山出る目標を掲げるとよい。

(委員) 数値目標を掲げて、それに向けて実行していくべきである。6年間かけて少しの変化しかないような中期目標で、将来的に尾道市立大学のレベルが向上していくのか。明らかに尾道市立大学が良くなる目標を掲げ

るべきだと思う。

(委員長) 市が中期目標を掲げたうえで、法人が中期計画の中で、それに沿った細かな数値目標を入れていくと思う。

(委員) 人口が減少し、学生数も減少していく中で、公立大学では定員は確保できるとしても質が落ちることが懸念されるため、行政として危機感を持って目標を立てなければならない。公立大学だから数値目標を入れないというのは通らない。

ある大学では、何年後までに全学生を100%留学させるという数値目標や、質の向上を図るため、あえて学部生の数を減らし、学習意欲の高い大学院生を増やして収入が減少した部分を補うというような明確な計画を立てている。

「役に立つ人材」ではなく、「グローバルでリーダーになれる人材を育てる」というような、文章だけ見てもさらに尾道市立大学が良くなるような目標を立てるべきではないか。尾道の人が行きたい大学にならないといけない。

(委員) 地域貢献や国際交流は、重要な部分だと考えている。空き家問題は注目されており、県外の学生がヒアリング等で尾道を訪れている。尾道の資源を他大学の学生が研究して成果を出している中で、地元の尾道市立大学の学生が活用できていないのは勿体ない。

尾道にしかないものを活用して特色を出すことができれば、県外からも尾道市立大学に来たいという学生が増えると思う。

(委員長) 重点課題がどこの大学でも通用するような課題になってはいないか。基本的な課題を実行した上で重点を置いてもよいと思う。ユニークな学部・学科と尾道をどのように結び付けていくかが重要であり、地域というキーワードは外せないと思う。

(委員) 市の目標が大きければ、大学が方向性を見出しやすいという見方もできる。

(委員長) 中期計画で細かな数値目標を掲げ、大学の力領を發揮してもらいたい。